

【館（やかた）がテーマの本】

まずは今年度、リクエストが多かった作家・知念実希人さんの本を紹介します。

『硝子の塔の殺人』 知念実希人／著（実業之日本社）

物語の舞台は、山奥に建てられたアイスクリームのコーンを逆さにしたような、円すい形をしたガラス貼りの 11 階建ての塔です。奇妙な建物に、集まった個性的で魅力あふれる登場人物たちと、そこで起こる事件、驚きのトリックが楽しめるミステリーです。

この『硝子の塔の殺人』の中で、何度も会話に出てくる小説がこちらです。

『十角館の殺人』 綾辻行人／著（講談社）

十面の壁にかこまれた十角形の館でおきる連続殺人事件。出版されたのは 30 年以上前ですが、今でも日本のミステリーを語る時によく紹介される名作です。

ファンタジーにも館（やかた）が登場します。

『この本を盗む者は』 深緑野分／著（KADOKAWA）

高校生の深冬は本が好きではありませんが、曾祖父は本の収集家で、その書庫である館、御倉館は町の名所にもなっています。御倉館にはその本を 1 冊でも持ちだしたら、ブック・コースという呪いが発動して、町全体が物語の世界の中に閉じ込められてしまうという秘密がありました。泥棒を捕まえて町を元に戻すため、深冬は様々な本の世界を冒険していきます。

今年度はホームページ上で本を紹介してみましたが、いかがでしたか？

感想は、司書のいる日の図書~~×~~館で聞かせてください。

